

B24b **銀河面上の暗い X 線点源の「すばる」MOIRCS による同定及び分光観測**
鈴木 健介 (東京大学)、辻本 匡弘 (ペンシルバニア州立大学)、海老沢 研 (宇宙航空研究開発機構)、小林 尚人 (東京大学)

我々の銀河面から放出されている銀河リッジ X 線成分の存在は 1980 年代前半から知られているが、その起源は未だ明らかではない。真に広がった成分である説と、たくさんの点源からなるという説が対立している。

Ebisawa et al. (2001, 2005) は、Chandra 衛星を用いて銀河面の X 線深観測を行い、その感度限界では点源の寄与は ~ 10 % 程度と結論づけた。最近、Revnivtsev らは同じデータの再解析を行い、検出限界を下げることによって、少なくとも ~ 20 % は点源の寄与があると結論づけている。また、彼らはさらに検出限界を下げれば、ほぼすべてのリッジ成分が点源に分解できると主張している。

辻本、海老沢らは Chandra 衛星で分解できた点源の、ESO/NTT における近赤外線同定観測、および、同定された赤外線天体のうち、明るいものについて ESO/NTT による近赤外線分光観測を行った。今回、我々は、さらに暗い赤外線天体について、「すばる」MOIRCS を用いて同定、および多天体分光観測を行なった。本ポスターでは、その初期成果を述べる。